「あったか京都」の実現に向けて府民の皆さんへのお願い

ユニバーサルデザインの考え方に対する理解を深め、ユニバーサル社会を推進する取組への積極的な参画と協力をお願いします。そして、日常生活において気がついたことに対して、利用者の立場から積極的な提言をお願いします。

また、個性を尊重し、人々の違いを広く受け止めるとともに、他人を思いやる心を大切にしてください。

取組例

- 人々の違いを幅広く受けとめる心（思いやり）を持つ
- 困っている人にちょっとしたやさしさを出す勇気を持つ
- 日常生活において気づいたことに対して、利用者の立場から提言
- ユニバーサルデザイン製品の積極的な利用

みんなでつくろう「あったか京都」！

街の中や、私たちの身近な生活の中にもユニバーサルデザインに配慮した工夫があります。みんなで探してみてください。

みんなでつくる「あったか京都」指針 ユニバーサル社会の設計図

（京都府ユニバーサルデザイン推進指針）

みんなでつくる「あったか京都」指針 策定の趣旨

京都府では、一人ひとりの様々な特性、多様性を認め合い、お互いに尊重しあいながら、誰でも安心して快適に過ごすことが当たり前にできる社会、持てる力を発揮して自らの意志で行動し、参加することができる社会「ユニバーサル社会（ユニバーサルデザインの考え方を基本とする社会）・京都」の実現を目指しています。ユニバーサルデザインの考え方を基本とするまちづくりやものづくりを進め、多様な人々が積極的に社会参加し、力が発揮できるユニバーサル社会が実現すれば、個性豊かなものづくりや地域づくりにもつながると考えています。

また、高齢者や障害者はもちろんすべての府民の方、あるいは京都府を訪れる多くの観光客や外国人などが、京都に住んでよかった、京都を訪れてよかったと喜んでいただけるよう、すべての京都府民が相手を思いやり、困っている人がいれば気軽に声をかけるなど、互いに支え合い共に生きる心を持つ社会の実現を目指しています。

このような、一人ひとりを大切にする、優しくあたたかい心で支え合う社会（あったか京都）を府民みんなの参画と協働で実現するための設計図として、平成21年8月に、みんなでつくる「あったか京都」指針（京都府ユニバーサルデザイン推進指針）を策定しました。

ユニバーサルデザインってなに？

ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、能力、国籍などの違いに関わらず、すべての人が笑顔こぼれるよう、はじめから、安心・安全で利用しやすいように、建物、製品、サービスなどをデザインすることとそのプロセスです。

ユニバーサルデザインの7原則

あらゆる人への配慮が大事なのね！

［ユニバーサルデザインという言葉や考え方は、1980年代にアメリカのノースカロライナ州立大学のロナルド・メイス氏が提唱し、その後7つの原則が発表されました。］

1. **公平性**…誰にでも利用できるように作られていて、簡単に手に入れることができる。
2. **自由度**…使う人の様々な好みや能力に合うように作られている。
3. **単純性**…使い方が簡単にわかるように作られている。
4. **わかりやすさ**…必要な情報が簡単に伝わるように作られている。
5. **安全性**…ミスや間違った行動が、危険や思わぬ結果につながらないように作られている。
6. **省体力性**…少ない力で効率的に、楽に使うことができる。
7. **空間の確保**…アクセスしやすく、簡単に操作できるスペースや大きさにする。

バリアフリーとユニバーサルデザイン

「京都府福祉のまちづくり条例」によるバリアフリー化の推進

「障害者や高齢者が暮らしやすいまちは、すべての府民にとっても暮らしやすいまちである」という府民共通の認識の下に、エレベーター、段差解消のためのスロープ、車いす用のトイレ設置など、個々の障壁を除去するバリアフリー化を推進してきました。

ユニバーサルデザインの推進

「人は誰でも年をとり、障害をもつ可能性がある」「あらゆる面で一人ひとりが個性や特徴を持っており、それぞれが個人として尊重されるべきこと」を認識し、高齢者、障害者など特定の人への配慮がなされているだけでなく、子ども、成人、妊婦、外国人などより多くの人に配慮し、すべての人にとって安心・安全で利用しやすい環境を最初から作ることが必要です。

ユニバーサルデザインを進める基本的な4つの姿勢

次の4つの姿勢により、支えあい共に生きる心と「府民の参画・協働で「笑顔あふれるあったか京都」の実現に取り組みます。

1 支え合い、共に生きる心を大切にします

100%の人が便利に使える、快適になることは、実際には難しいことですが、相手を思いやり、困っている人には気軽に声をかけるなど、支え合い共に生きる心でより多くの人々が参加したり活動したりすることが大切です。また、京都を訪れるすべての人を「おもてなし」の心で迎え、お互いに理解を深めることを大事にします。

2 府民の参画と協働で進めます

「あったか京都」をつくるには、実際に生活している府民の意見や要望が反映されることが必要です。そのためには、府民の積極的な参画とともにそのための仕組みづくりが大切です。また、優れた発想や取組の情報を共有し、府民との協働で今後の考えに反映させていくプロセスが重要であり、そのノウハウ(手法)を蓄積することにより、さらに改善を図ります。

3 京都の伝統文化や地域の特色を大切にします

すべての人のためのデザインであるため、画一化されたものと誤解されがちですが、地域における利用者のニーズも異なるため、都市部と農山村など地域における特性や府民のライフスタイル等を考慮していくことが必要です。また、「かどはき」や「地蔵盆」に代表されるような地域でのくらしを大切にする習慣や子どもを大切に育む心など、長年培われてきた京都の伝統や文化に根ざす地域性や京都が誇るものづくりを、ユニバーサルデザインの考え方に活かすことが期待されます。

4 継続的な取組で改善・進化します

「ユニバーサル社会」を実現するための取組には、到達点(ゴール)はなく、もっと良くすることはできないかを常に考える必要があります。そのためには、「計画・実行」したら「点検・見直し」を行い、改善・進化を続けることが必要です。

様々な分野で取組を進めましょう

1 ひとづくり

目標 思いやりを持って人に接することができる「ひと」

ユニバーサル社会を推進する上で最も大切なことは、「心のやさしさ」「思いやりの心」であり、一人でも多くの府民にユニバーサルデザインの考えを理解していただくための普及啓発や、リーダーとなる人材の育成を進めます。

2 社会参加

目標 誰もが、社会の一員として、多様な分野で主体的に参加し、能力を発揮できる「仕組み」

多様な人々が積極的に社会に参加し、その力を発揮できる社会づくりが大切です。すべての人々が自分の意志で自由に社会参加し、情報を受信し、また自ら発信することで自己実現を図ることのできる社会づくりを進めます。

3 情報・サービス

目標 様々な受け手に配慮した情報提供・サービス提供

すべての人々が必要な情報やサービスを円滑に入手することができるよう、わかりやすい表現や表示に努めるとともに、利用者の特性や違いに応じた手段による情報やサービスの提供を目指します。

具体例
- 見やすい文字での表示
- サイン表示、音声案内など多様な手法での案内
- カラーユニバーサルデザインに配慮した時刻表
- 観光客に配慮した街角の案内表示

4 まちづくり

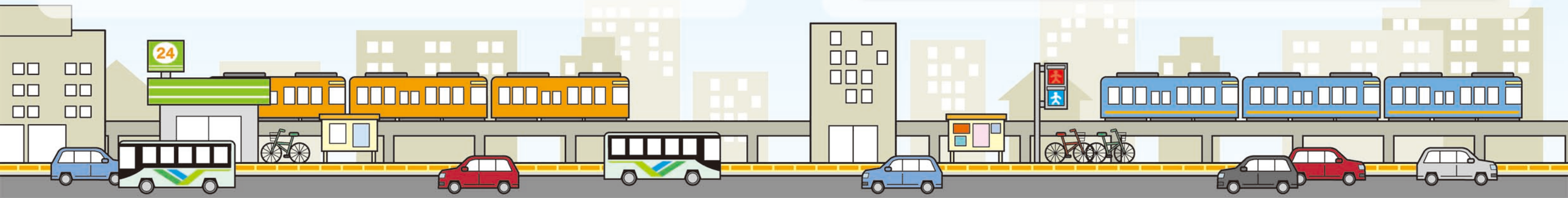
目標 誰もが自由に暮らせるやさしさあふれる「まち」

すべての人々が暮らしやすい都市環境や交通環境などの整備を促進し、やさしさあふれるまちづくりを目指します。

具体例
- 段差が無く歩きやすい道路
- 障害者にとっても出入りしやすい建物
- 誰もが使いやすい多機能トイレ
- 車いすでもベビーカーを押していても乗り降りしやすい電車やバス

5 ものづくり

目標 誰もが簡単に使いこなせる「もの」

すべての人々が安全で簡単に使うことができるよう、利用者の視点に立った使いやすいユニバーサルデザイン製品の普及を目指します。

具体例
- 誰もが使いやすい道具や家電製品、情報機器の開発(携帯電話、シャンプー等の容器、文房具、洗濯機等)